

## 令和6年度第1回 静岡市清掃対策審議会会議録

1 日 時 令和6年10月24日(木) 午後2時~午後3時30分

2 場 所 静岡市役所静岡庁舎本館 第2委員会室

3 出席者 (委員)

平井委員、天野委員、島委員、佐藤委員、丹沢委員、  
板谷委員、石田委員、大石(眞)委員、溝口委員、窪田委員、  
増田委員、大石(善)委員、狩野委員、松尾委員

(事務局)

大畠環境局次長、織部環境政策監

【ごみ減量推進課】

渡邊ごみ減量推進課長、伊熊係長

【廃棄物対策課】

長田廃棄物対策課長

【収集業務課】

鈴木収集業務課長

【廃棄物処理課】

小林廃棄物処理課長

4 傍聴人 0人

### 5 報告事項

- (1)静岡市のごみ減量施策の実施状況について
- (2)使用済みプラスチック使用製品の回収事業の状況及び  
その他プラスチック製容器包装の分別事業の実施について

### 6 会議録

(ごみ減量推進課 渡邊課長より報告事項(1)の概要説明)

平井会長 静岡市のごみ減量施策の実施状況についてご報告いただきました。ご意見・ご質問ありましたら、よろしくお願いします。

- 窪田委員 ガイドブックは毎年配っているのか。
- 収集業務課長 改訂版という形で必要な方にだけお配りしている。今後、分別ルールの変更などに伴い、大きな変更があったときは、全戸配布ができればと思う。
- 佐藤委員 バンダイとの連携事業について、ローカルビジョンに採択されたことはすごいなと思う。今後全国的に展開していくとあるが、せっかく静岡から発生したので、まずは静岡の全小中学校を対象にやるべきでは。バンダイのプラスチックリサイクルが静岡市の大きな位置づけにできるような、静岡市全体に広がっていくよう積極的に実施していくべきでは。
- 渡邊課長 本市もバンダイも、広く学校に展開していく準備はある。あとは、学校のスケジュールの調整。そこの調整をやっていく。
- 平井会長 環境省の補助事業の内容に沿って、バンダイがどこまでやる気なのかが大切。
- 伊熊係長 本市とバンダイが実施しているスキームを動画にし、展開することでプラスチックリサイクルの周知を進めていく。これを全国に展開していく。
- 溝口委員 海洋プラスチックのリサイクルも重要だが、ごみを捨てない、流さないという点が重要。ペットボトルもかかるべき場所できちんと処理されれば、海洋プラスチックの問題にはならない。蛇口を閉める教育もしていただきたい。
- 渡邊課長 おっしゃるとおり。授業の中身としては、海洋漂着ごみが、必ずしも日本由来ではないという事の紹介と、海洋投棄という行為がどれだけ環境に影響を与えるのか、こういったことをしっかりと伝える中身にしている。
- 大石善博委員 大浜で16年、中島で5年、安倍川で6年間清掃活動をしているが、静岡市のごみの現状を分かってもらいたいということと、なぜ静岡市にごみが出ているのか?ということ、ごみの発祥を知ってもらうこと、こういった流れを知ってもらうことが重要と思う。これをバンダイのプラモデルをとおして伝えることで、児童も楽しんでくれている。環境活動をやっている地域の団体も連携して、この事業を開いていければと思う。バンダイにひっぱってもらって、静岡の良いところを出してもらえれば。

業者にも負担がかかっていくと思うが、分別に対する助成や補助は考えているか。

また、プラスチックごみが減る分、発電が減少するとあったが、焼却炉の熱量が下がると、化石燃料を増やさないとごみが燃え切らないのではないか。プラスチックごみの減少によっての CO<sub>2</sub> 量は削減されても、化石燃料を増やした分による CO<sub>2</sub> の増加もあるのではないか。

水分量の多い生ごみの分別を進めることにより、CO<sub>2</sub> の削減に寄与するのではないかと思うがどうか。

渡邊課長

事業から排出されるプラスチックは産業廃棄物であるため、既に分別の上産廃処理されているという認識。家庭への分別の手間への支援や助成については難しい。見込み交付金の差額については、いずれにしても費用がかかるため、新たな歳入として見込まれるものではない。

現在家庭ごみでは、生ごみ・紙ごみ・プラスチックごみが大部分を占めているため、生ごみの減量についても課題と認識している。水分を切ってもらうことでも効果があるため、まずはこれを周知していく。かつて、本市でも生ごみ処理機補助金があり、生ごみ処理機の周知を目的に運用してきたところであるが、周知目的を終えたとして打ち切った経緯がある。この生ごみ処理機の補助金を復活させたい、という思いはある。令和8年度からの開始を目指していく。

処理課長

プラスチックが減った場合でも、他のごみがもつエネルギーで燃やすことはできるため、プラスチックごみがなくなったからといって化石燃料が増えることはない。

増田委員

外国人の方が増えている中、どうやって外国人へ分別ルールを周知していくか。

収集業務課長

外国語版の分別ガイドブックを配布している。日本語学校など、外国の方がいる場に出前講座を実施するなどを行っており、今後も周知を進めていく。

松尾委員

プラスチックの再商品化について、再商品化されたものを流通させるような工夫が必要になってくると思う。

また、バンダイスピリッツとの連携事業は環境省の補助事業とのことだが、この補助が終わっても継続できるような仕掛けが大切だ。

渡邊課長

国は自治体に対して、プラスチックの再資源化を強く求めている。一方、事業者に対しては、一定の割合で再生プラスチックを用いることを求めている。プラスチックのリサイクルが回っていくような仕組を、国を挙げて行っており、これに本

板谷委員 令和7年から9年に施設整備、計画策定とあるが、これは予算措置がされてい  
るのではないか。

渡邊課長 スケジュールに示した施設整備は、民間事業者の負担でやっていただくもの。今  
回、民営のプラスチック廃棄物処理施設を整備するなかで、本市のプラも処理  
していただく予定。また、計画策定や周知といった内容は、特別な予算措置が不  
要な範囲で行う予定。

平井会長 今日は報告事項という位置付けで、皆様にはご意見をいただいた。私の方でお  
預かりしている進行のテーマはこれで全て終了したので、進行を事務局へお返  
しする。

(閉会)

7 会議録署名

会長 平井一之